

# みみょう幼稚園だより



令和3年7月号 \*\*\*\*\* <http://mimyo.org/youchien/>

## プールあそびはじまりました



屋上のプールを使つての水あそびが始まりました。水が苦手な子どもさんにとつても、楽しい水あそびになるように、様々な水槽や用具を用意しています。それぞれのお部屋で作つた水に浮かぶ手づくりおもちゃを嬉しそうに持ち込む姿も見られます。今年は、6月から暑い日が多くありました。水あそびとはいえ、熱中症の対策も必要です。日よけテントに張り巡らしたミストロープは、子どもたちに大人気で、楽しさと涼しさの2倍の効果をあげています。また、コロナ対策として、プールの水量は、昨年同様、少量にし、その他の水槽についても、頻繁に水の入れ替えをしています。まだまだ予断は許されません。しっかりと気を引き締めながら、最大限に楽しい夏ならではのあそびを展開してまいります。お家の皆様には洗濯物を増やしてしまい、お手数をお掛けしていますが、どうぞご理解いただき、ご協力をお願いいたします。また、園開放や放課後の園庭開放を、7月より再開をさせていただきます。お互いに予防を心がけながら、しっかりと楽しんでいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

## \*\*\* とても大切な肌からの刺激 \*\*\*

「わー！冷た〜い！気持ちいい！！」水あそびをしながら、子どもたちが、元気な歓声をあげています。その表情や身体全体から楽しくてたまらないという気持ちがあふれています。中にはまだ、水がかかるのが怖いと感じるお子さんもおられますが、この肌から受け取る多くの刺激は、子どもたちの成長に欠かせないものです。



子どもたちが一番初めに肌から受け取る刺激は、お母さんやお父さんによるスキンシップです。親子のスキンシップがもたらす心と脳への影響力の大きさについては、多くの研究からも証明されており、挑戦する力や集中力、コミュニケーション能力の向上にもつながるといわれています。我が子に添い寝をしたり、抱きしめたりした時の心地よさやフィット感は、親にとつてもとても幸せな記憶として、心や身体に蓄積されていることと思います。

こうして、乳児期から幼児期を迎えた子どもたちは、幼稚園で、泥んこやスライム、粘土などを思いっきり触って遊びます。様々な新しい刺激を受け、新しい感触を味わうことで、より複雑な感覚が育っていきます。絵の具などを素材とした“ぬたくりあそび”もそうした肌からの刺激による感性の育成に必要な活動なのです。また、お友だちとの触れあいも重要な刺激です。肌だけでなく、言葉や眼差しのやり取りも加わり、もっと複雑に幾重にも響きあいながら、成長を促しあっているのです。

先生たちも、日常的に子どもたちの肌にふれ、手をつなぎ、頭や背中を優しくなでながら、思いに寄り添っています。心地よいふれあいによって、一人ひとりの理解や信頼関係も深まっていくのです。また、心を落ち着かせる、優しさや粘り強さにつながるなど、その効用は絶大です。「もう年長なのだから、お兄ちゃん、お姉ちゃんなのだから」と言わないで、お子さんが求めていると感じたときには、いつでも心地よい肌への刺激を十分に与えてあげてくださいね。 (園長 三上玲子)